

～もうすぐ1年生～

5歳児さくらさんはもうすぐ1年生。

さくらさんたちは、そら、やまの部屋

で3歳児さん4歳児さんたちと共に生活をし、小さい子たちから憧れられたり、自分の持っている力を貸してあげたり、時にはケンカしたりしながら育ち合って来ました。そして、友だちの気持ちを感じとり、仲直りする喜び、人として生きる土台を築いてきた子どもたちです。

これから先、いろいろなことがあって落ち込むこともあるかと思いますが大丈夫。子どもたちは、生活力や考える力、人と共に力を合わせてやっていく喜びをたくさん培って来ました。

さくらさんたち、小学校に行っても、友だちとたくさん遊び、勉強し、命を大切に、そして、お家のお手伝いもやって、毎日元気にすごしてください。

卒園そして小学1年生、おめでとう！



コロナ禍の中で大切にしていきたいこと

「新型コロナウイルス感染症」ということが社会問題となり1年が経ちました。昨年2月27日、学校の臨時休校が突然出され、子どもたちは（保護者も）戸惑いや混乱の中に見舞われました。そうした中、「保育所については、保護者が働いており、家に一人いることが出来ない年齢の子どもが利用するものであることや、春休みもないなど学校とは異なるものであることから、感染の予防に留意したうえで開所」が求められました。保育所だけでなく、学童保育所も同様に開所が求められました。

そして4月、緊急事態宣言に伴い、「保育の縮小や休園が考えられるが、医療従事者や社会の機能を維持するために就業を継続することが必要な者、ひとり親家庭などで仕事を休むことが困難な者の子ども等の保育が必要な場合の対応については検討を行う」として各家庭に登園自粛要請が出されました。

登園自粛をされた保護者の皆さんは在宅ワークをしながら子どもを見たり、子どもたちもずっと家の中で友だちとも遊べずつまらなかつたりとストレスを抱えながらの日々となりました。

保育所現場はその後日々細かい通知が出され、それへの対応などに追われて来ました。

誰もがどうしたら良いかわからない中、必死にこの期間を過ごしてきたと思います。

登園自粛により、保育の現場では登園率が下がりそこから見えてきたのは、子どもたちの持ち定数の事です。少人数の保育で子どもたちの姿がよく見えて丁寧に関わられたということです。一人ひとりにゆとりを持って接することが出来るのが本来の姿であるということが改めてはっきりしてきました。こうした人員配置やスペース（ののかぜ保育園はスペースには余裕がありますが）確保が本当に必要であるということが全国の保育園は経験してきました。

保育をセーフティーネットとするならば、これらのことも国や自治体はしっかり目を向けて対応して欲しいと思っています。

保育の現場では、あい共連と愛保協（愛知保育団体連絡協議会）とで新型コロナウイルス感染対策を専門としている清水宣明先生（愛知県立大学看護学部教授）に、各園からプールや行事、給食など食事の場面で気を付けること、消毒や体調管理のことなど様々な質問を出し、それらに答えていただき、指針を示してもらい対応をしてきました。先日（2月23日）の緑の丘福祉会後援会総会の記念講演でも、清水先生にお話をさせていただき、清水先生からは、保育の現場で

「感染者の発生を防ぐことはできない」「どう対応するか」をあらかじめ決めておく、「正しく恐れること」を改めて強調されました。ののかぜ保育園でもいつ感染者が発症するかわかりませんが、その時は保護者の皆さんと共に感染が広がらない対応をしていきたいと考えています。

